



*FUTURE*

# FUTURE REPORT 2016

2016.01.01 - 2016.12.31

フューチャー株式会社 TSE 1ST SECTION:4722

## ごあいさつ

### 未来をポジティブに捉え、現状に満足することなく 非連続な成長を遂げていく企業であり続けていきます。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

いま、世界は大きな転換期を迎え激しく変化しています。私たちの目の前にはこれまでの延長線上にはない未来が待ち受けています。こうした中、フューチャーグループは経営者のパートナーとしてビジネスのあるべき姿を考え抜き、そのための最適なしくみを高い技術力で実現するという、独自のコンサルティングスタイルを築き上げてまいりました。このコアビジネスは変わりませんが、これまでのノウハウを活かしたオリジナルサービスを提供していくことで、事業の拡大にも取り組んでいます。

この動きに加速度をつけて発展させるため、2016年4月に持株会社体制へと移行しました。「賢くて俊敏でコンパクト」なフューチャー株式会社を中核に、第2・第3の大黒柱になるビジネスの創出を目指し、インキュベーションやM&Aにも力を入れていきます。

社名に「フューチャー」を冠する私たちは、常に未来をポジティブに捉え、現状に満足することなく非連続な成長を遂げていく企業でありたいと考えます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017年3月

代表取締役会長 兼 社長 グループCEO **金丸 恭文**

取締役副社長 ITコンサルティング統括 **東 裕二**



フューチャー株式会社  
代表取締役会長 兼 社長 グループCEO  
フューチャーアーキテクト株式会社  
代表取締役会長

**金丸 恭文**

Yasufumi Kanemaru



フューチャー株式会社  
取締役副社長  
フューチャーアーキテクト株式会社  
代表取締役社長

**東 裕二**

Yuji Higashi

# 当社グループの現況及び今後の戦略について

## 2016年12月期の事業概況

### 2016年12月期のハイライト

01

連結売上高は  
前期比4.6%減の  
**336.5億円**

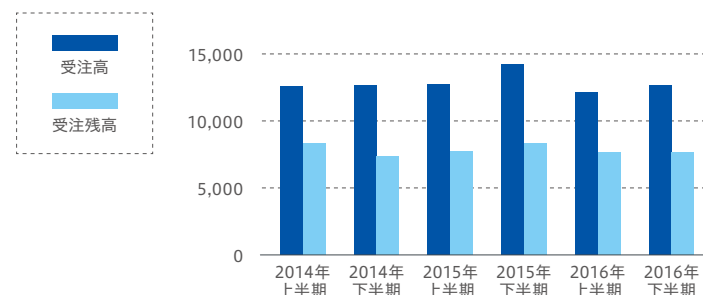
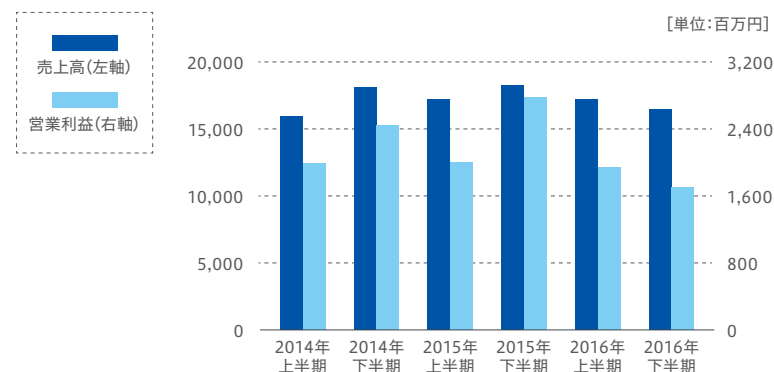
02

連結営業利益は  
前期比25.2%減の  
**36.4億円**

当社グループの2016年12月期の連結業績は、売上高33,653百万円（前期比4.6%減）、営業利益3,642百万円（同25.2%減）、経常利益3,589百万円（同25.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益2,208百万円（同17.0%減）となりました。

ITコンサルティング事業は、国内において前期と同等の売上を確保しましたが、新卒の採用拡大による人件費の増加や研究開発費の増加があり減益となりました。パッケージ&サービス事業は、上半期における新規受注の減少が影響し、売上高・営業利益とも減少しました。ニューメディア&ウェブサービス事業においては売上高が拡大しましたが、将来の成長のための先行投資により、営業損失は拡大しました。

### 【連結】半期別業績推移



## 今後の成長に向けて

当社グループは今後、各事業子会社間のシナジーを向上させるべく、「ITコンサルティング事業」と「パッケージ&サービス事業」を1つのセグメントに集約し、「ITコンサルティング&サービス事業」と「ニューメディア&ウェブサービス事業」の「2WAY戦略」により事業を推進する方針です。

ITコンサルティング&サービス事業においては、当社グループ独自の手法となる「Future Formula」を活かしてレガシーシステムの刷新などにより当社グループ独自の付加価値を追求するとともにイノベーションを生み出すIoT、AI、ビッグデータなど新しい技術の開発を推進します。また、子会社間のコラボレーションやシナジーの追求に注力します。

ニューメディア&ウェブサービス事業では、東京カレンダーを中心に顧客接点を有効に活かして新たなマーケティングプラットフォームの構築を目指すなど、新規サービスの収益基盤の確立を図ります。

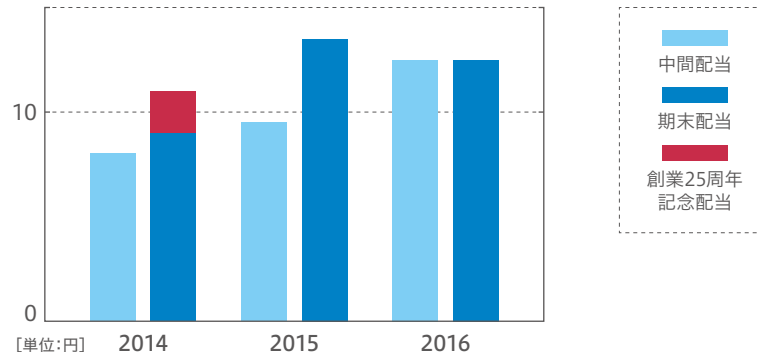
## 株主還元策

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置づけ、持続的な成長を図るための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等を総合的に勘案して、連結の配当性向35%以上を目安に株主還元を実施しています。

この方針に基づき、2016年12月期の年間配当金については1株当たり25円とさせていただきます。2017年12月期につきましては、1株当たり26円(うち中間配当金13円)を予定しております。

### ▼ [連結]2016年度実績

	2016年度実績	2017年度計画
売上高	33,653 百万円	36,830 百万円
営業利益 営業利益率	3,642 百万円 10.8%	4,500 百万円 12.2%
経常利益 経常利益率	3,589 百万円 10.7%	4,520 百万円 12.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益 当期純利益率	2,208 百万円 6.6%	2,735 百万円 7.4%

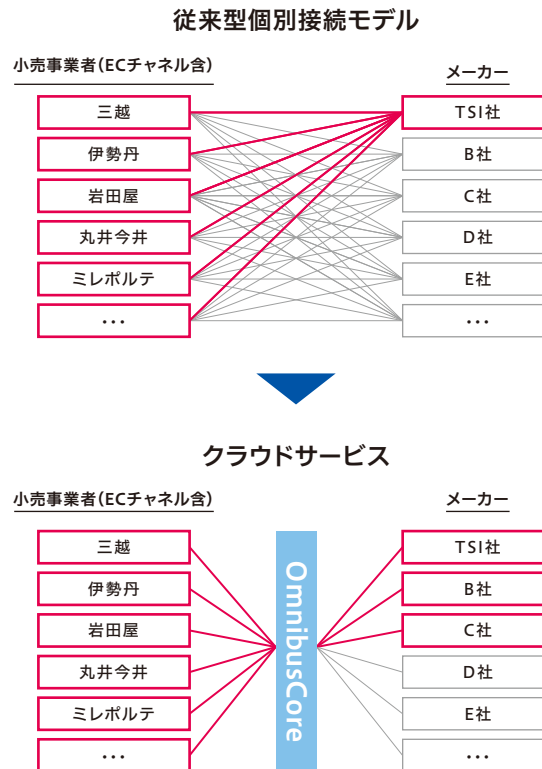


## オムニチャネル戦略支援データ連携システム「OmnibusCore」の展開で三越伊勢丹様と協業

「OmnibusCore」は、フューチャーアーキテクトが運営するクラウド型のオムニチャネル戦略支援データ連携システムです。同サービスに加入する小売事業者と取引先メーカー間で商品や在庫の情報を共有し、スピーディーな販路の開拓や受発注業務、在庫の適正化を支援します。2015年9月にサービス提供を開始して以来、これまでに大手小売業13社の16サイトに展開しています。

2017年1月には三越伊勢丹様が採用し、同社と提携する百貨店のECサイト間で取引先メーカーの商品在庫を柔軟に連携できるようになりました。これにより、小売事業者は販売機会のロスが最少化できるとともに、取引先メーカーはECサイト上で豊富な商品バリエーションを展開することで売上拡大が見込めます。

フューチャーアーキテクトと三越伊勢丹様は、協力して複数の小売事業者やより多くのメーカーに「OmnibusCore」を展開することで、同システムを流通小売業界の標準プラットフォームとして位置づけ、流通小売業界のEC活性化と売上向上に貢献する考えです。



## エービーシー・マート様の保守運用コストの削減

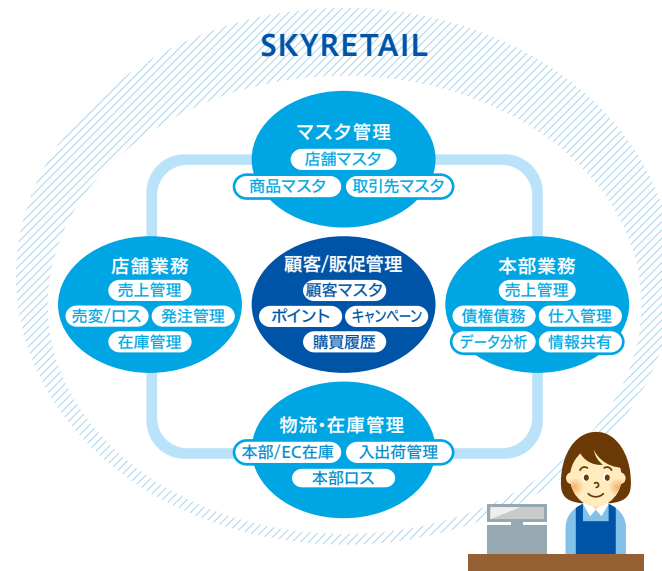
フューチャーアーキテクトは、2010年にエービーシー・マート様の店舗業務を支える基幹システム「ABC-Mart Retail System (以下ARS)」を開発・構築しました。2014年からは、様々な変化に迅速かつ柔軟に対応できるIT基盤としてクラウドサービス「Amazon Web Services」上で稼働しています。保守運用サービスを提供しているフューチャーインスペースは、ARSのリソースとコストを最適化するためのコンサルティングを行い、2016年9月までに保守運用コストを15%削減しています。

## SKYクラウドシリーズから「SKYRETAIL」をリリース予定

フューチャーアーキテクトでは、高度に専門化されたアプリケーションクラウドサービス「SKYクラウドシリーズ」のラインアップを強化しており、小売業・卸売業向けクラウドサービス「SKYRETAIL」の第1号ユーザーを獲得し、開発を推進しております。

フューチャーグループが創業以来蓄積した流通業の店舗・本部業務支援、物流・在庫管理、顧客管理、マーチャндаイジングなどの知見を結集し、統合的なデータベースから一体的・網羅的に提供するクラウドサービスは、スーパーマーケットやホームセンター、百貨店などの幅広い小売業・卸売業の経営革新・業務改革・システム改革を三位一体で支援します。

このようにフューチャーが業種ごとに蓄積した知見を提供する「SKYクラウドシリーズ」は、今後もEC向けクラウドサービス「SKYCOMMERCE」や物流業向けの「SKYLOGI」へとバリエーションを拡充していきます。



## ディープラーニングをはじめとした人工知能技術(AI)への取り組み

データ活用や経営資源活用に関わる課題を抱えるクライアント様事業、及び当社事業に対して人工知能技術を活用したアプローチを進めています。

具体的には、静止画や動画からの物体認識や人の行動分析、伝票・請求書といった手書き文字を含む証票の認識精度の向上、顧客からの声など企業内に蓄積された自然言語情報の大意要約や自動分類に向けた取り組みとなります。

ディープラーニングをはじめとした先端技術が秒進分歩で進歩を遂げる中、有用な技術を取り込みつつ、これまで培ってきたビジネス面での経験・洞察を活かしつつ、エンタープライズシステムの中でも活用しやすい適切なカタチで組み込んでまいります。

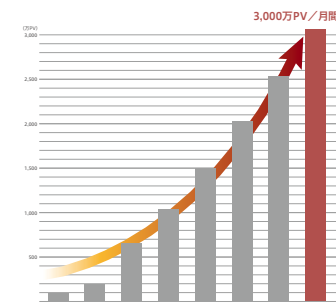


## 『東京カレンダーWEB』が3,000万ページビューを突破

東京カレンダーは、「雑誌とWEBとリアルイベントの融合」を目指す戦略により新たなファン層を獲得し、成長を加速しています。

2016年7月からiOSアプリでの提供を本格的に開始した『東京カレンダーWEB』は、リアルで上質な新しい都会のライフスタイルを提案する「東京カレンダー」のプレミアムブランドイメージを具現化し、“大人の社交場”をテーマに出会いとグルメを楽しむ「東カレNIGHT(リアルイベント)」を開催。2016年12月からは『東京カレンダーWEB』で連載されていた名物コラム『東京女子図鑑』が連続ドラマ化されてAmazonプライム・ビデオで配信されるなど、ファン層を拡大するプロモーションを意欲的に展開しています。

こうした取り組みにより、2015年11月に月間アクセスが1,000万ページビューを超えた『東京カレンダーWEB』は、2016年12月に3,000万ページビューを突破し、この1年で300%の急成長を果たしています。



## 製造業向けシステムで多数の実績を持つワイ・ディ・シーを子会社化

2017年1月、YOKOGAWAグループのITサービスを担う株式会社ワイ・ディ・シーを子会社化しました。

ワイ・ディ・シーはYOKOGAWAグループのシステムインテグレータとして、生産管理システムや品質情報統合解析ソリューション「YDC SONAR」など、製造業に特化した業務改革コンサルティングや品質解析、システムソリューション事業で豊富な実績を誇り、関西や中部地域に多くの優良顧客を有します。

フューチャーグループでは今後、フューチャーアーキテクトが培ったITに関する高い知見や技術力・開発力と、ワイ・ディ・シーが有する製造業に関する深い業務知識やITサービスのノウハウ、マイクロ・シー・エー・デーの製造業向けソリューション力を同期させ、グループ内の戦略的なアライアンスにより、スマートファクトリーやAI、IoTなどの製造業向け新プロジェクトを推進していきます。

# YOKOGAWA

株式会社ワイ・ディ・シー



# 特集

- Feature -

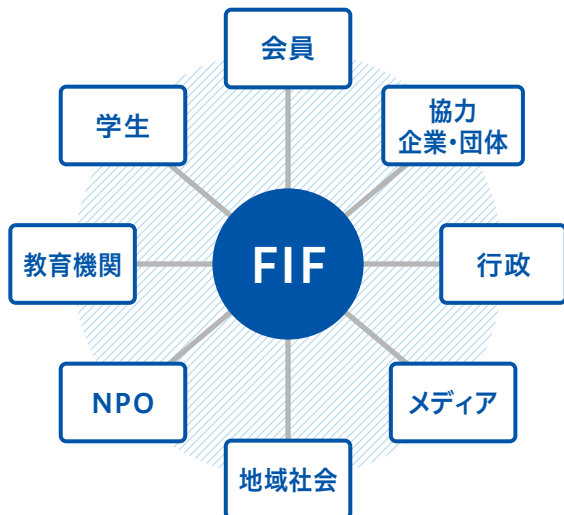
## フューチャーの社会貢献活動「フューチャー



フューチャー イノベーション フォーラムは、  
おかげさまで2016年に設立10周年を迎えました。

### フューチャー イノベーション フォーラムとは

フューチャーが運営するフューチャー イノベーション フォーラム(FIF)は、“イノベーションで人と社会を豊かに”という理念のもと、様々な企業と協力して社会貢献活動を行う団体です。2016年1月に設立10周年を迎えたFIFは、これまでの活動により、約670の協力企業・団体や大学・研究教育機関、NPO、メディアなどで構成されるオープンイノベーション型の会員組織に成長しました。



### イノベーションによる豊かな 社会づくりに取り組んで10周年

FIFは、変革の担い手となる次世代リーダーの育成を目指し、主に若手ビジネスパーソンや子どもたちを対象に様々な活動を企画・運営しています。これまでに149のイベントを開催し、延べ5,000名を超える方々にご参加いただきました。

活動は「会員向け」と「キッズ向け」があります。会員の方々に対しては、共通のビジネス課題について議論するセミナーやワークショップを定期的に開催し、様々な企業の次世代リーダーが交流し相互研鑽する場を提供しています。また、子どもたちに対しては、将来の夢を描ききっかけとなる場として、キャリア教育を目的とした職業体験やプログラミング教室を企画・運営しています。

イノベーションセミナー



プログラミング教室





## 2016年度の活動

### 会員向け企画

#### 5-9月 AIをテーマにした ワークショップを開催

「AIで起こすビジネス革命」をテーマに3回のワークショップを開催。毎回AIの展望、導入事例などに関する講演を行い、グループディスカッションを実施してアイデアを発表しあいました。



#### 5月 第11回アドバイザリー ボードミーティングを実施

FIFは各界トップの方々にアドバイザリーボードを務めていただいています。年1回の会合では前年度の成果や今後の計画を発表し、皆様から貴重なご意見やアドバイスをいただいています。



#### FIF設立10周年を記念して 特別サイトを公開

FIF 10年の歩みとお祝いのメッセージをまとめた特別サイトを公開しています。



【FIF設立10周年特別サイト】<http://fif.jp/10th/>

### キッズ向け企画

#### 7月 セールスドライバーとして 物流の最前線を学習

佐川急便様での職業体験では、IT機器を活用した荷物の配達実習や、最新の物流施設の見学などをおして荷物が届くまでの流れや国際物流のしくみについて学びました。



#### 7月 ブラインドサッカー選手の プレーをバーチャル体験

フューチャーは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げるための活動の一環として、視覚障害者向けのスポーツ「ブラインドサッカー」を多くの人に知ってもらおうと、バーチャル・リアリティで体験できるアプリを開発。ブラインドサッカー大会の会場で、来場者向けに体験イベントを行いました。



#### 8月 ITを活用した未来の 警備システムを体感

ALSOK様では、ドローンやウェアラブル端末で危険人物を捜しだす未来の警備のデモやガードマンの訓練の一部を体験。人とITが融合した未来のセキュリティとガードマンの心得を学びました。



## フューチャーの業績・財務状況

### 連結貸借対照表

—決算のポイント—

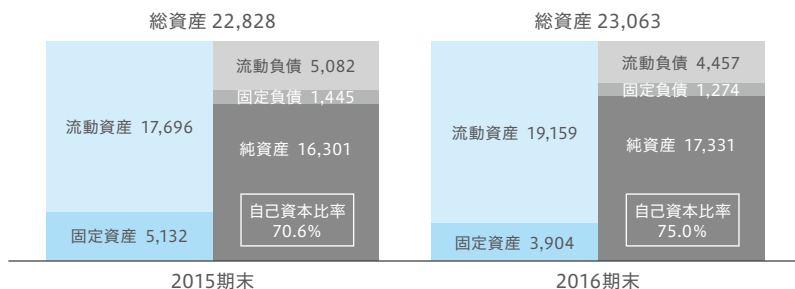
- ◆ 総資産は現金及び預金が増加した一方、のれんなどの固定資産が減少し、前期末より234百万円増加
- ◆ 負債は、買掛金や未払法人税等の減少により、前期末比794百万円減少
- ◆ 純資産は、利益剰余金の増加等により前期末比1,029百万円増加

[単位:百万円]

	前連結会計年度末 2015年12月31日現在	当連結会計年度末 2016年12月31日現在
流動資産	17,696	19,159
固定資産	5,132	3,904
流動負債	5,082	4,457
固定負債	1,445	1,274
純資産	16,301	17,331
総資産	22,828	23,063

### 総資産の推移

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

### 連結損益計算書

—決算のポイント—

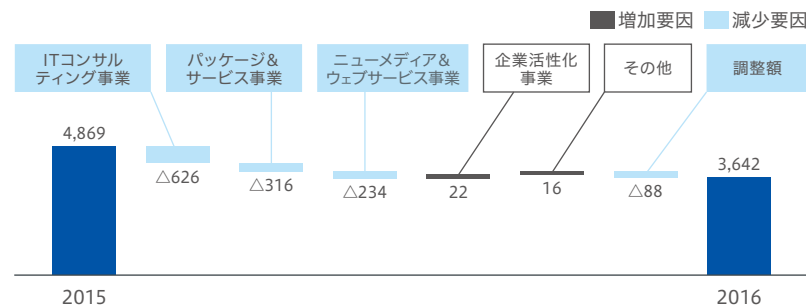
- ◆ 企業活性化事業において魚栄商店の譲渡による売上高の減少、ITコンサルティング事業において人件費や研修費等の増加による営業利益の減少等により、全体の売上高・営業利益ともに前期比減少

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2015年 1月 1日 至2015年12月31日	当連結会計年度 自2016年 1月 1日 至2016年12月31日
売上高	35,293	33,653
売上総利益	13,655	13,419
販売費及び一般管理費	8,786	9,777
営業利益	4,869	3,642
経常利益	4,836	3,589
親会社株主に帰属する当期純利益	2,659	2,208

### 営業利益の増減要因

[単位:百万円]



※グラフを見やすくするため、数値と高さは比例していません。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

—決算のポイント—

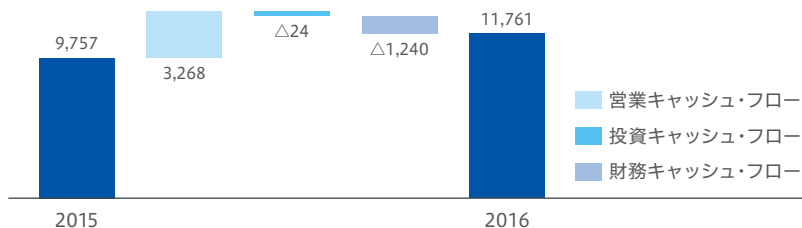
- ◆ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上や売上債権の減少による収入等により、3,268百万円の収入
- ◆ 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払1,160百万円等により、1,240百万円の支出

[単位:百万円]

	前連結会計年度 自2015年 1月 1日 至2015年12月31日	当連結会計年度 自2016年 1月 1日 至2016年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,878	3,268
投資活動によるキャッシュ・フロー	△749	△24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△941	△1,240
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45	1
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	1,142	2,004
現金及び現金同等物の期首残高	8,614	9,757
現金及び現金同等物の期末残高	9,757	11,761

### キャッシュ・フローの推移

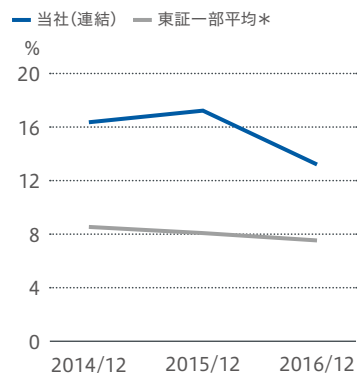
[単位:百万円]



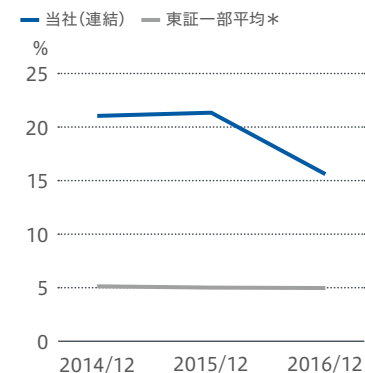
※現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しています。それにより生じるグラフの誤差については調整しています。

## フューチャーの投資指標

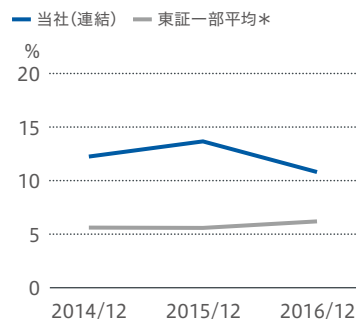
### 自己資本当期純利益率(ROE)



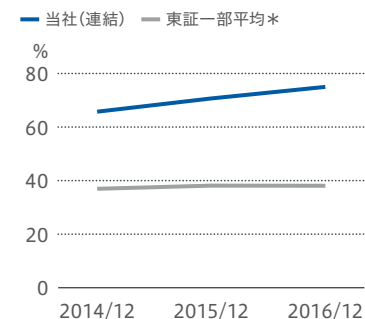
### 総資産経常利益率(ROA)



### 売上高営業利益率



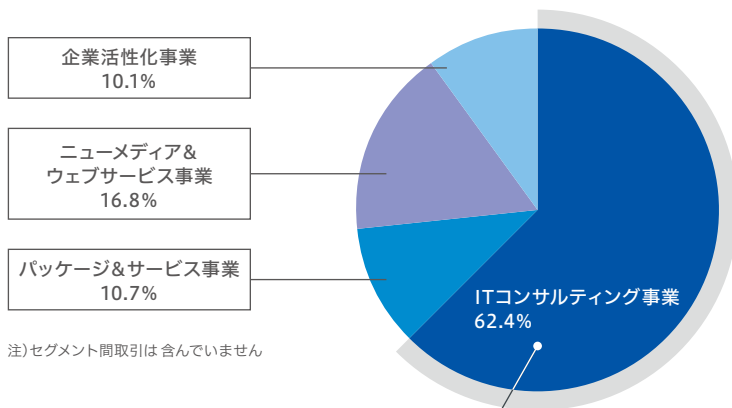
### 自己資本比率



\*2014年3月期、2015年3月期、2016年3月期決算短信(非連結を含む)を発表した東証一部上場会社のうち、変則決算会社・各期における新規上場会社・金融業に係る集計対象会社を除いた会社の平均値。(出典:東京証券取引所統計資料)

# フューチャーのセグメント別業績・戦略

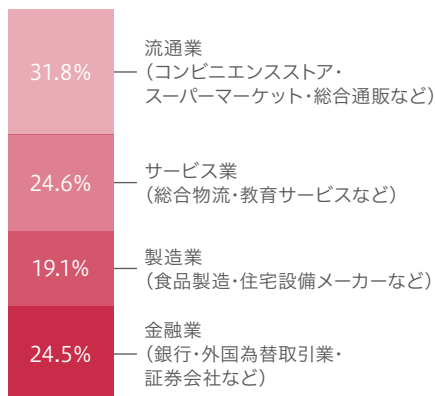
## セグメント別売上高構成比 2016年度



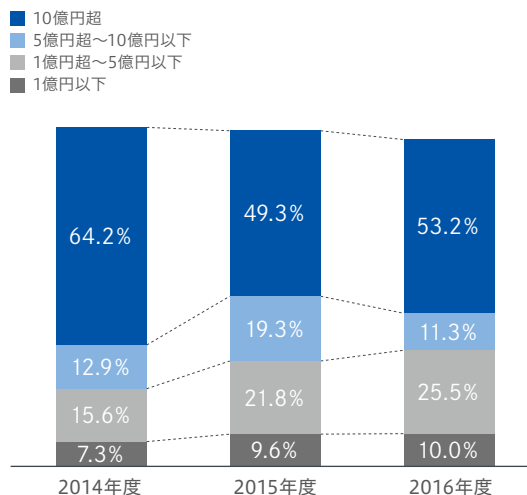
注)セグメント間取引は含んでいません

## ITコンサルティング事業(単体)における業種別売上高構成比

2016年度



## ITコンサルティング事業(単体)におけるプロジェクト(アカウント)規模別売上高構成比の推移



## 2016 レビュー

### ITコンサルティング事業

- ▶国内ではマイナス金利下の金融機関、その他新規顧客のプロジェクトが中止または延期され、売上高は横ばい
- ▶新入人件費・研修費・研究開発費が増加し、営業利益は減少
- ▶保守運用案件はフューチャーインスペースに順調に移管

### パッケージ&サービス事業

- ▶FutureOneは、プロジェクトの品質問題から上半期に新規受注が進まず、不採算事業部門の整理を行った結果、後半持ち直したものの、売上高・営業利益ともに減少
- ▶マイクロ・シー・イー・デーは、自社製の統合的財産管理システムにおいてプロジェクトのスタート遅延が影響し、売上高・営業利益が減少

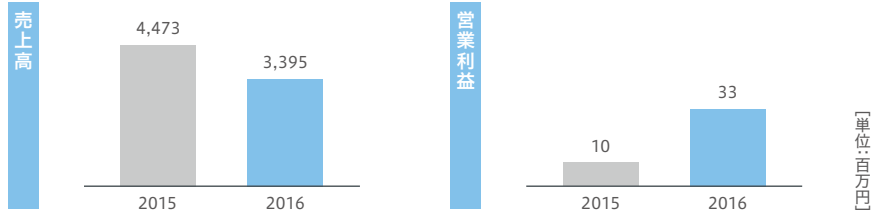
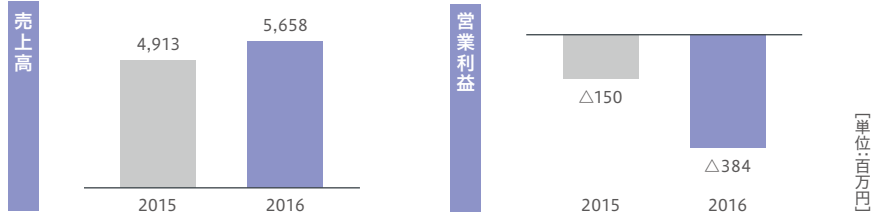
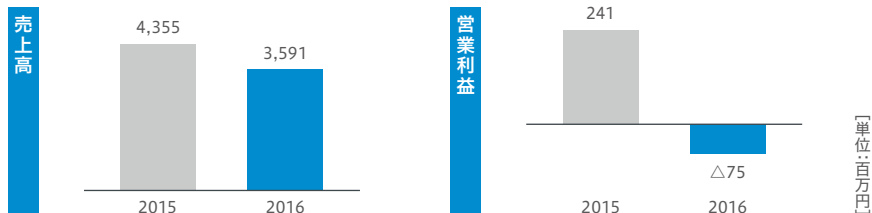
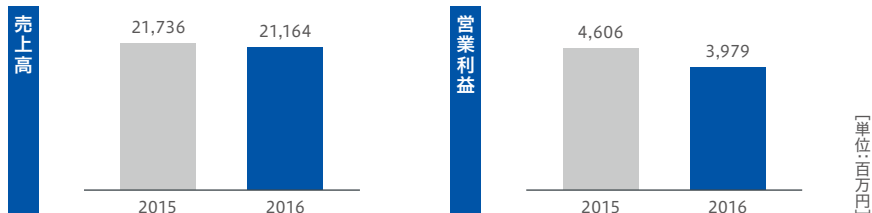
### ニューメディア&ウェブサービス事業

- ▶東京カレンダーは、月間3,000万ページビューに達し、広告収入が増加したものの、事業規模拡大に備えた体制整備の費用計上により営業損失を計上
- ▶eSPORTSは、アウトドア関連プライベートブランド等の販売が好調で、売上高・営業利益ともに増加
- ▶コードキャンプ等の新規事業は売上高が急増したものの、成長のための先行投資により、営業損失が拡大

### 企業活性化事業

- ▶2016年9月7日付で株式会社魚栄商店の全株式を譲渡し、第3四半期末に連結の範囲から除外
- ▶その結果、前期業績との比較では売上高は減少となり、営業利益は増加

## 2016 実績



## 今後の見通し

### ITコンサルティング&サービス事業※

当社グループ独自の様々な付加価値のあるサービスを顧客に提供するとともに、AI、IoT、ビッグデータを活用した高度な最新IT技術の研究開発を進めて、スマート工場など顧客ビジネスのイノベーションに貢献します。

「SKYBANK」「SKYRETAIL」などクラウドサービスの積極展開を図ります。(P.5参照)

ワイ・ディ・シーの連結子会社化(P.6参照)を活かし、子会社間のコラボレーションやシナジーをさらに推進して、顧客層拡大やソリューション充実を図ります。

※「ITコンサルティング事業」及び「パッケージ&サービス事業」は集約し、「ITコンサルティング&サービス事業」に名称変更予定。

### ニューメディア&ウェブサービス事業

東京カレンダーは、自社企画・制作の動画コンテンツ配信サービス及び「東カレNIGHT」をベースとした有料会員サービスの展開などにより、新規ユーザーの開拓と新たなマーケティングプラットフォームの構築を目指します。

eSPORTSは、消費者のニーズに合わせた戦略的な仕入を推進し、プライベートブランド商品の強化や東京カレンダーと連携したアプリ開発により、売上・利益の成長を図ります。

コードキャンプは、法人向けのオンライン・オフラインでのプログラミング教育及び人材紹介等の周辺サービスの充実を図り、収益基盤の拡大と通期の黒字化を目指します。

※2016年4月1日付で持株会社体制への移行により組織体制を整備したため、当第2四半期連結会計期間より、従来「ITコンサルティング事業」に含めていたグループ運営に係る費用をセグメント利益の調整額に費用として計上する方法に変更し、各グループ会社からの業務委託料やグループ成長支援料等をセグメント利益の調整額に収益として計上する方法に変更しています。

## 会社概要(2016年12月31日現在)

会社名 フューチャー株式会社  
 英文社名 Future Corporation  
 設立 1989年11月28日  
 資本金 14億21百万円  
 従業員数 1,493名(連結)

## 役員(2016年12月31日現在)

代表取締役会長 兼 社長 グループCEO  
 取締役副社長ITコンサルティング統括  
 取締役副社長CTO&CSO  
 取締役 フューチャー経済・金融研究所所長  
 取締役(常勤監査等委員)  
 取締役(監査等委員)  
 取締役(監査等委員)  
 取締役(監査等委員)

金丸 恭文  
 東 裕二  
 石橋 国人  
 原田 靖博  
 牧 保  
 川本 明  
 三田村 典昭  
 渡邊 光誠

## 主要な連結子会社の状況(2016年12月31日現在)

- フューチャーアーキテクト株式会社
  - フューチャーインスペース株式会社
  - FutureOne株式会社
  - 株式会社マイクロ・シー・イー・デー
  - 株式会社eSPORTS
  - 東京カレンダー株式会社
  - コードキャンプ株式会社
  - フューチャーインベストメント株式会社
- 他8社

## 主な事業所(2016年12月31日現在)

(当社)  
 本 社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2  
 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー  
 TEL: 03-5740-5721 FAX: 03-5740-5820

大阪オフィス 大阪市中央区

(フューチャーアーキテクト株式会社)  
 本 社 東京都品川区  
 大崎ウエストオフィス 東京都品川区  
 ThinkParkオフィス 東京都品川区  
 大崎ウィズタワーオフィス 東京都品川区  
 鹿児島オフィス 鹿児島県鹿児島市

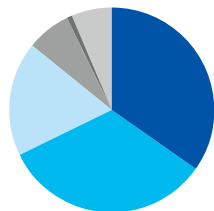
## 株式の状況(2016年12月31日現在)

発行可能株式総数 189,376,000株  
 発行済株式の総数 47,664,000株  
 株主数 6,827名

### 大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
(有)キー・ウェストネットワーク	11,952	25.08
金丸 恭文	7,123	14.95
フューチャー(株)	2,958	6.21
SGホールディングス(株)	2,000	4.20
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	1,327	2.79
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE-HCR00	1,103	2.32
(有)クロスシティ	957	2.01
日本マスタートラスト信託銀行(株)[信託口]	818	1.72
BBH FOR GRANDEUR PEAK INTERNATIONAL OPPORTUNITIES FUND	721	1.51
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)[信託口]	683	1.43

### 株式の所有者別状況



● 個人・その他	16,569 千株	34.76 %
● その他国内法人	15,867 千株	33.29 %
● 外国人	8,483 千株	17.80 %
● 金融機関	3,315 千株	6.96 %
● 金融商品取引業者	469 千株	0.98 %
● 自己株式	2,958 千株	6.21 %

#### ○ご注意○

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取り扱いさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株主メモ

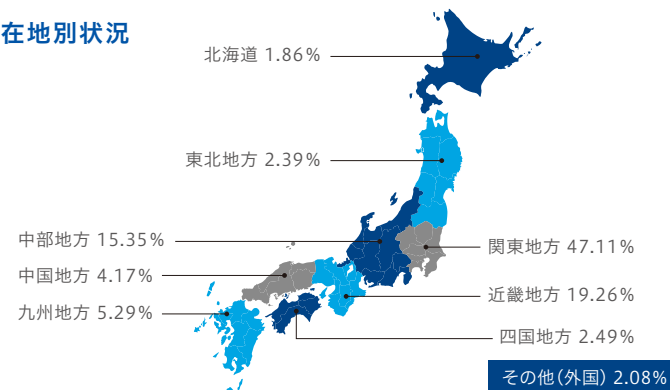
決算期 12月31日 期末配当 12月31日  
 定時株主総会 3月 中間配当 6月30日

※このたびは株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社に変更することになりました。

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
 (連絡先・照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 フリーダイヤル:0120-782-031  
 ホームページ: <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
 公告掲載URL <http://www.future.co.jp/hd-ir/notice/index.html>

ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に公告いたします。

### 株式の所在地別状況



#### 注意事項

本レポートには、現時点における情報に基づいた将来にかかわる予測が含まれております。それらは今後の日本経済やITサービス業界の動向などにより、変動する可能性がございます。従って、当社がその確実性を保証または約束するものではないことも予めご承知おきください。

# FUTURE REPORT 2016

フューチャー株式会社

本社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

TEL:03-5740-5721 FAX:03-5740-5820

<http://www.future.co.jp/hd>